本当の勇気って？

～暴力団にねらわれないために～

発行／佐賀市
協力／佐賀県警察本部人身安全・少年課
佐賀市教育委員会

暴力団排除啓発リーフレット（中学生向け）

お母さんの手記

「誇り」

私達親子にとって地獄のような毎日だった。娘は、暴力団と薬物に身も心もぼろ雑巾のようにされてしまった。

（中省略）

娘は、暴力団に売春をさせられ続け、その嫌なことを忘れるためにシンナーに逃げていた。

暴力団からもシンナーからも逃げ切れず、十五歳の娘は、一人で苦しみを背負っていた。

（中省略）

私は、娘をぼろぼろにした暴力団、シンナーが憎い。娘のように苦しむ子どもをみたくない。暴力団と薬物をこの世からなくしたい。

今、私は、勇気を持って私や警察の方に話をし、暴力団と薬物と闘った、そんな娘を誇りに思い、これからも愛し続けていく。

※仮称「ヒロコ」の母の手記より

暴力団って？

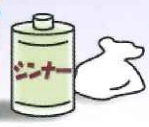
どうやって近づいてくるの？

- 甘い言葉や巧みな誘いで近づいてくる。
  「ご飯おごるよ」
  「楽して稼げるバイトがあるよ」
- 携帯電話の出会い系サイトなどを利用して近づいてくる。

中高生は、暴力団のターゲット

- 夜中のコンビニなどでたむろしているような少年
- 昼間に、学校をサボってゲームセンターで遊んでいるような少年
- 家出をしているような少年
- 暴走族のメンバーや暴走族に興味をもっているような少年

どんなことをしているの？



- シンナーや覚せい剤の密売をしてお金を稼いでいる。
- 少年を使って、少女をだまし、風俗店で働かせてお金を稼いでいる。

一人で悩まず早めに相談しましょう!!

学校のこと

- **勉強**についていけないんだけど…
- **部活**がうまくいかない…
- **学校**に行きたくないんだけど…

友達のこと

- 最近、友達から**無視**される。
- **暴走族**に誘われているけど、どうしよう。
- 友達が、**シンナー**を吸ってるみたい。やめさせたいんだけど。

家庭のこと

- きょうだいと**比べられる**。
- **両親**が、いつも**けんか**ばかりしている。
- 親が**話を聞いてくれない**。

あなたは誰の手をつかみますか?

家族・親しい友人・学校の先生など、あなたの周りには、
必ず、あなたの悩みに一緒になって考えてくれる人がいます。

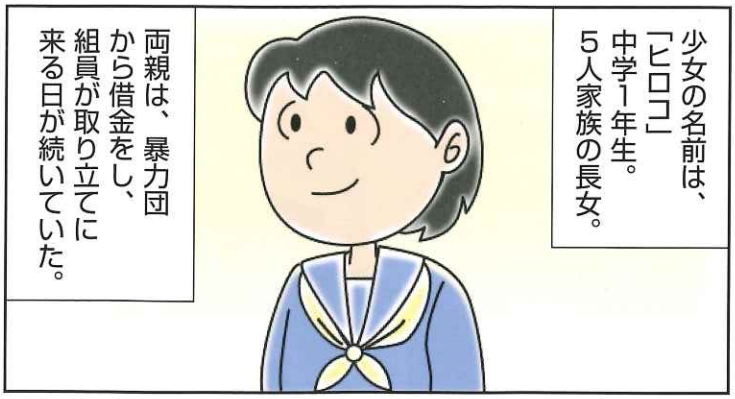
- 佐賀県警察少年サポートセンター …… TEL フカク ナヤムナ 0120-29-7867
- 佐賀南警察署 …… TEL 0952-23-6110
- 佐賀北警察署 …… TEL 0952-30-1911
- 佐賀市青少年センター子ども電話相談 …… TEL 0952-29-3594
- 佐賀市青少年センター子どもメール相談 …… ✉ kodomosoudan@city.saga.lg.jp
- 佐賀市教育相談テレフォン …… TEL 0952-40-1515

R5.3

佐賀市 SAGA

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

お母さん ごめんね


少女の名前は、「ヒロコ」中学1年生。5人家族の長女。
両親は、暴力団から借金をし、組員が取り立てに来る日が続いていた。

また、来たよ…
早く隠れなさい！
子どもたちは、暗い押し入れに押し込まれ息を殺した。

どうしてご飯が食べられないの？
お父さんがお金を借りてしまって、返せないんだよ。

中学3年生になったヒロコは、夫婦喧嘩が絶えず、暴力団が取り立てに来る家に居場所をなくし、髪を金髪に染め、女先輩と交際するようになり…
寂しさを紛らすためにシンナー遊びに明け暮れていた。
シンナー
非行はやめようよ

先輩！お金が欲しいなあ。パ～っと稼げるアルバイトないかな？
家にも居たくないし、お金で苦しみたくない。

ヒロコは、女先輩の紹介で、暴力団組員と出会った。
いい人知ってるよ。会わせてあげようか？
うん、お願い。

はじめまして、ヒロコです。
この人怖そう。でも、そんな人が近くにいたら怖いものはない…ラッキー！

可愛いね、どうしたの？
お金が稼げるアルバイト探してます。なんかないですか？

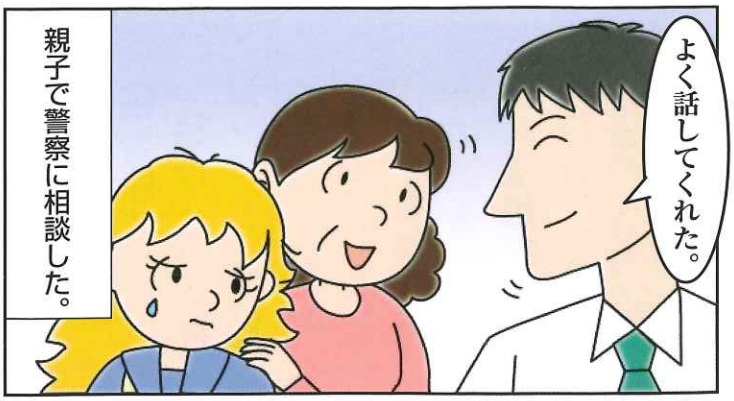
この子、可愛いぞ。援助交際で使えるぞ！
あるよ。何でもやるの？
はい。

暴力団の巧みな誘いや甘い言葉に騙されたヒロコは、これから始まる苦痛や家族のことを考える余裕はなく、援助交際を始めるようになった。

暴力団組員は、逃げようとするヒロコに何度も電話をかけ、脅し続けた。

怖くなったヒロコは、恐怖心を紛らすために、また、シンナーを始めた。

そんな生活が、何ヶ月か続いた。


よく話してくれた。
親子で警察に相談した。

よかったね。暴力団が捕まって。
うん。

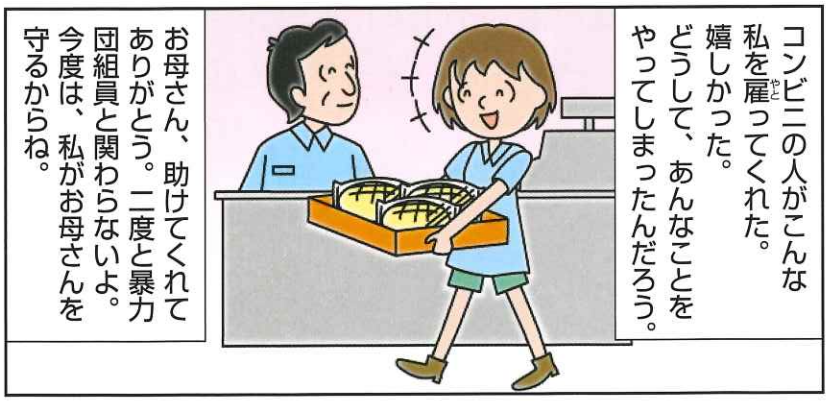
ヒロコは、街角ですれ違う人や立ち止まっている人たちが全部暴力団組員に見えていた。
ヒロコは、恐怖のあまりにリストカットを繰り返すようになった。

どうしたの？元気ないよ。
あの暴力団組員は、捕まったけど、仲間の暴力団員が私を捜しているかもしれないよ。家から出られないよ。怖いよ・・・。

警察の中にも、困っている子どもたちを支えてくれる人たちがいるって聞いたから、相談してみようよ。
うん。行ってみる。

ヒロコは、警察の人達に支えられ、また、アルバイトとして支えてくれた地域ボランティアに温かく見守られた。

お母さん、助けてくれてありがとう。お母さんに相談してよかった。
あんたには、お母さんがついてるよ。暴力団やシンナーと闘った、あんたを誇りに思うよ。


コンビニの人がこんな私を雇ってくれた。嬉しかった。どうして、あんなことをやってしまったんだろう。
お母さん、助けてくれてありがとう。二度と暴力団組員と関わらないよ。今度は、私がお母さんを守るからね。

7年が経過

成人となったヒロコは、シンナーからも抜け出し、試験を受けて会社採用となり、家族を支えながら「今」を懸命に生きている。
しかし、暴力団組員とまた、出会ってしまうかもしれないという恐怖心が消えることはない。
この物語は、事実をもとに作成しておりますが、「ヒロコ」は仮称です。